①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・異分母の真分数のたし算，ひき算の仕方を理解し，計算できる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・小数のたし算，ひき算において，整数部分と小数部分を分けて考えれば計算しやすいことを学習している。

≪学習問題≫

＋　を計算しよう。

教材研究ノート№5-A-6

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し：帯分数どうしのたし算は初めてだ。

→仮分数どうしや，整数どうし，分数どうしならたせそうだ。

②学習課題：仮分数に直したり，整数と分数に分けたりして，

 ＋ 　の計算の仕方を説明しよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：仮分数に直したり，整数部分と分数部分に分けたりして，たし算をし，その過程の説明を考える。

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・帯分数どうしのたし算は，仮分数に直したり，整数と分数に分けたりして，分数部分を真分数にすれば計算できる。

・帯分数のたし算は，小数のたし算と同じように考えられる。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「整数と分数に分けて求めた答えが，との2通りあるけ

れど，どちらも仮分数にすると等しいから正しいのかな？」

→「帯分数は，分数部分は真分数にするのだった。整数どうし，分数どうしでまとめただけではいけないんだ」

④共同追究後半（思考を深める）

「なぜ，仮分数にしなくても正しく計算できるのだろう？」

→「いったん仮分数にしても，最後に帯分数に直すから，整数どうし，分数どうしでたしてもいいんだ。」

「小数のたし算でも，整数と小数を分けて計算したね。」

⑥定着･活用問題

次のたし算をしなさい。

ア　＋　　　イ　＋　　　ウ　＋＋

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・導入の段階で，帯分数を仮分数に，仮分数を帯分数に直すドリルや学び直しをすると，帯分数を仮分数に直して追究する見通しをもちやすい。

・仮分数にしなくても正しく計算できる理由を考える場面では，分数部分のみのたし算をすればよいことが視覚的にとらえられるように，絵図や線分図を利用させる。